

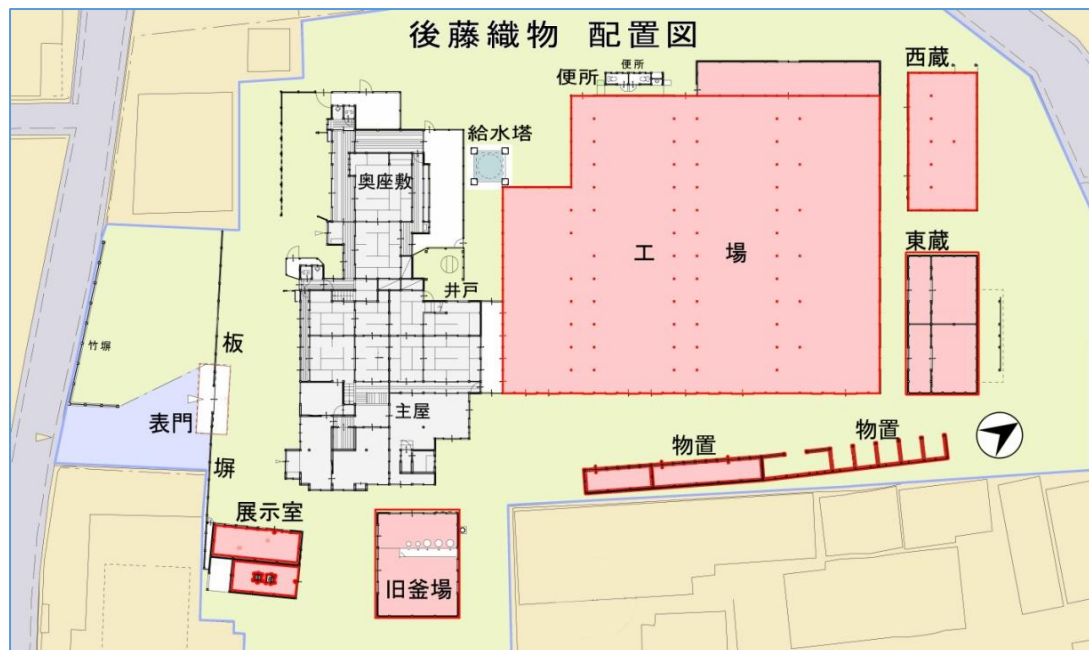
後藤織物

工場・旧釜場・物置

展示室・東蔵・西蔵

後藤織物の工場施設は敷地内北側に、切妻の西蔵・東蔵を東西に直列に配しその南側に鋸屋根工場が建つ。敷地東側には地界の塀に沿って物置が南北に長く配されている。

主屋の東側には切妻の旧釜場が南面して建ち、南側に展示室（倉庫）が西面して建てられている。



名称：後藤織物工場

構造：木造平屋建、瓦葺及び鉄板葺、便所付

規模：建築面積 720 平方メートル

年代：昭和 23 年、昭和 24、25 年増築

後藤織物の鋸屋根工場は戦後再建される際に主屋に近い南側の切妻造り 1 棟が建築され、続いて 3 棟の鋸屋根が漸次増築されていった。そのため棟境に柱が並列し、通路状の空間が見られる。



名称：後藤織物旧釜場
構造：木造平屋建、鋼板葺
当初コンクリート瓦葺
(平成 27 年改修)

規模：建築面積 56 平方メートル
年代：昭和 24 年 (戦時中に撤去
された釜場を再建)

南面のほぼ全体を開口部とする。天井は張らず換気の置屋根を乗せる。5箇所 5箇所の焚口をもつ煉瓦造の窯が大・中・小の鉄製釜と共に現存し、煙突下半部も遺存している。



名称：後藤織物物置
構造：木造平屋建、鉄板葺
規模：建築面積 55 平方メートル
年代：大正 14 年頃

敷地の東辺に沿い細長く「く」の字に屈折して西面して建つ。西側には下屋が設けられる。

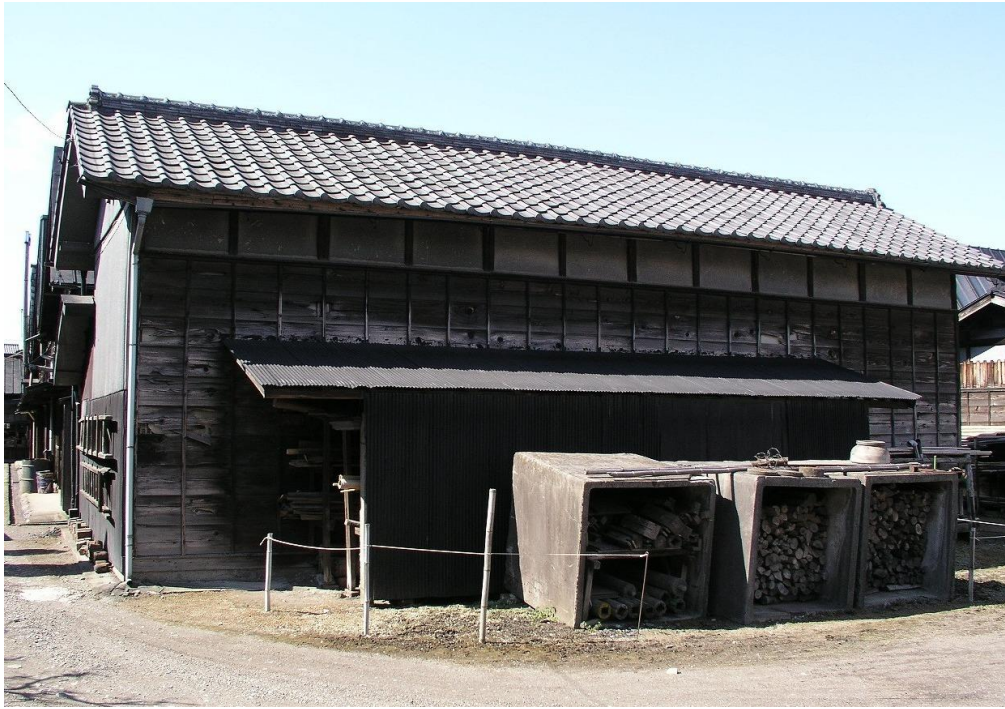
南側の物置には味噌や醤油、漬物など従業員のための食料を保存し、北側の下屋には薪や炭を貯蔵していた。



名称：後藤織物倉庫
構造：木造平屋建、瓦葺
規模：建築面積 20 平方メートル
年代：大正 14 年以前

敷地内の門の東側に建てられた倉庫で、当初は絹糸の保管場所であった。後に東側に車庫が増設された。

平成 23 年の震災を受け応急措置として屋根を鉄板葺きにした。平成 27 年には日本遺産の展示施設として、鋸屋根工場西側のトイレの洋式化と併せて改修された。



名称：後藤織物東蔵
 構造：木造2階建、瓦葺
 規模：建築面積64平方メートル
 年代：明治前期

(大正15年頃引屋)

鋸屋根工場の北東寄りに建南面して建つ。後藤家では蔵と呼ばれ、什器類や布団などを納めていたと伝えられるが土蔵造ではない。切妻造棧瓦葺で外壁は下見板張である。南側に下屋を設け蔵前とし、内部は2室に分けられている。



名称：後藤織物西蔵
 構造：木造平屋建、鉄板葺
 規模：建築面積64平方メートル
 年代：昭和11年頃

鋸屋根工場の北西寄りに東蔵に並び南面して建つ。南側に下屋を設けるが仕切りはなく、内部は1室となっている。紋紙の収蔵庫として使用される工場の主要施設である。

昭和11年の織物工場増設の際に建築されたと考えられる。

明治36年桐生懇話会発行の桐生商業案内に掲載された後藤定吉の広告



昭和19年、解体前の鋸屋根工場



戦後再建された現在の鋸屋根工場

